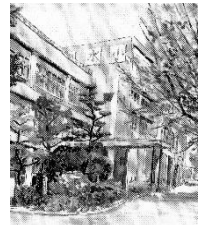




### 校訓

なかよく  
つよく  
しんげんに



菊池市立  
泗水小学校  
学校だより  
第8号  
R3.7.8  
発行  
校長  
工藤竜一

### 学校教育目標

「仲良く」「強く」「真剣に」「学ぶ泗水ここの育成」  
「そろえる」「続ける」「チーム泗水・  
オール泗水を通して」

### 校内人権旬間の取組

泗水小では、六月十四日(月)から七月九日(金)を校内人権旬間に設定し、各学級で学年の発達段階に応じた教材を用いて人権学習の授業を行い、学んだことなどを伝え合う人権集会を行っています。この機会に、学校や学級のくらしを見つめ直し、一人一人の人権が大切にされる学校にしていくための実践力を育てたいと取り組みました。



2年生の人権集会の様子

昨年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため実施できませんでしたが、県の感染リスクレベルが下がったことを受けて、七月六日(火)に二年ぶりに行いました。当日は十二名の赤ペン先生(地域のボランティアの皆様)にお集まりいただき、五・六校時に、一、二年生の国語・算数補充学習の〇つけをしていただきました。「二年生になるとちよっと頭をひねることもある。私たち自身の頭の体操になります!」と笑顔で帰られました。次回は、七月二十日(火)の予定です。楽しみです。



各学級4人ずつの赤ペン先生  
…ありがとうございます!

### こすもす学級交流会

六月下旬から、こすもす学級のことを正しく理解するために、こすもす学級交流会を行っています。授業では、こすもす学級担任が個性を認め合うことの大切さやこすもす学級で行っている学習のことなどについて、詳しく話をしています。児童は真剣に話を聞き、今後の自身の行動について考えていました。児童にとって、お互いの違いを認め合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ機会となりました。



こすもす学級交流会を各学級  
で行いました

### ☆校長室から独り言②☆

#### 「子供を幸せにしたければ・・・。」

私の息子は、5才の頃、ストーブにかけていたやかんの熱湯を両足に浴びて大やけどをしました。背中から両足へ皮膚を移植する手術を行い、2週間にわたる40度近い発熱を乗り越え、3ヶ月の入院・リハビリで退院しました。退院の日、私たち夫婦は、治療をしてくださった皮膚科部長の先生に部屋に呼ばれました。

「息子さんが3才以下だったら命が危なかった。やけどをさせてしまったのは親の責任。しかし、『ごめんね』を言い続けて育てると、親を恨む子供に育つ。ひいては、うまくいかないことがあると、社会が悪いと思う子供になる。それでは、子供は不幸になる。やけどをしたからこそ、人の痛みがわかることがある。将来、自分にはできないことがあるから、前向きに生きていこうと話すこと。決して甘やかしてはいけません。学校の先生だからわかりますよね。」

この医師の言葉を胸に、子育てをしてきました。息子は、やけどをした経験を活かしたいと、損害保険会社へ就職して2年目になります。